

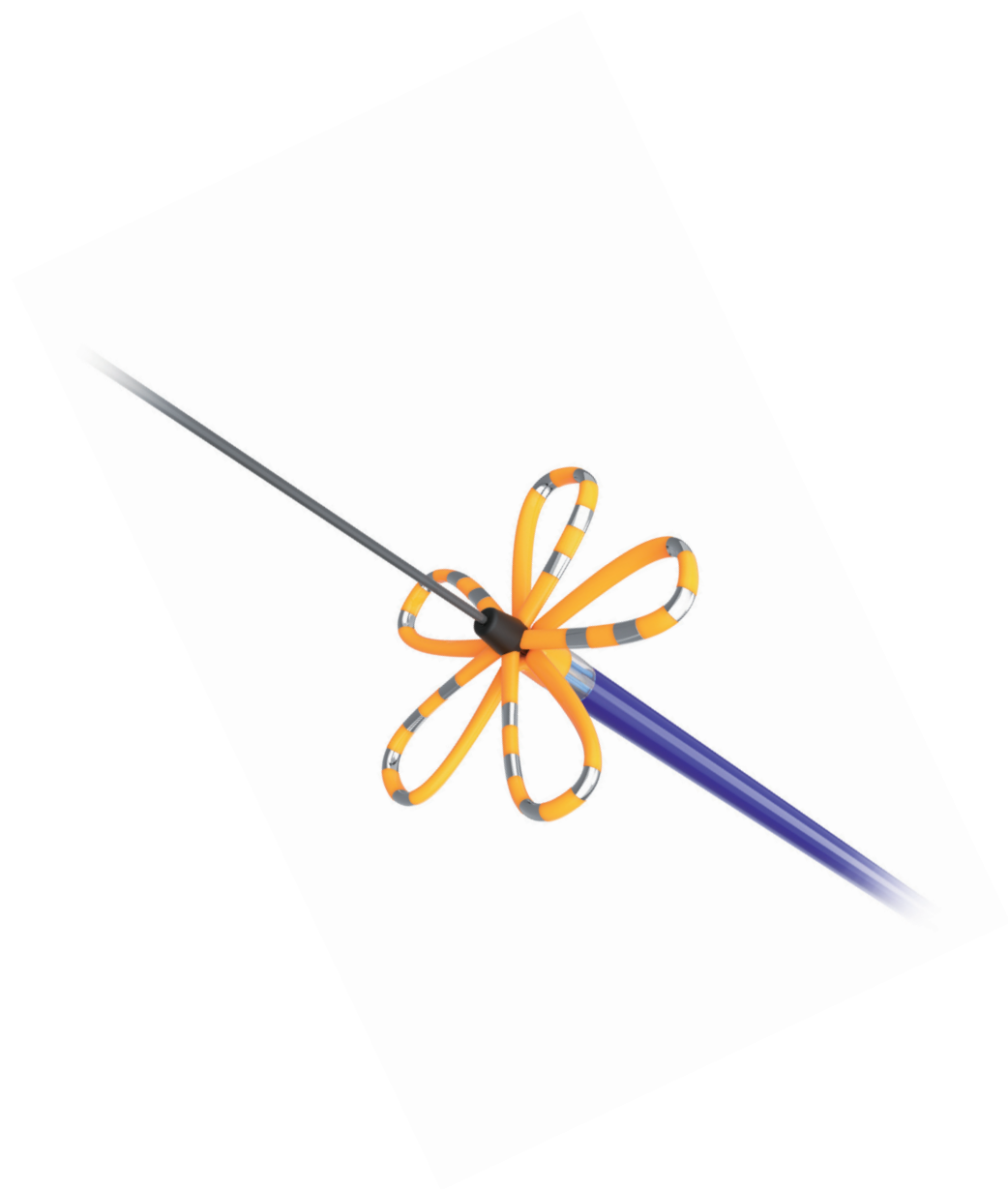
連携医療機関向け広報誌

COMPASS

N A G O Y A E K I S A I K A I H O S P I T A L

vol.09

2025 September



Cardiovascular Medicine



日本の高齢化が進行する中、心疾患による「労作時の息切れ」や「動悸」などの症状が、患者様の日常生活の妨げとなっています。虚血性心疾患や末梢動脈硬化性疾患、また心不全に関連する心房細動などの不整脈に対する適切な治療が、患者様のQOL向上に寄与することが明らかになってきました。当科ではこれまでも救急科を窓口として「急性冠症候群」「心不全」「不整脈」など救急診療にて受け入れております。しかし重症化する前段階で早期に発見・治療介入することができれば長期入院によるADL低下を予防できるのではないかと考えており、当院では循環器対策基本法に沿った健康寿命延伸の方針を積極的に推進する努力をおこなっております。その取り組みを成功させるために皆様のご協力が不可欠でありますので何卒よろしくお願い申し上げます。

Cardiovascular Medicine

循環器内科

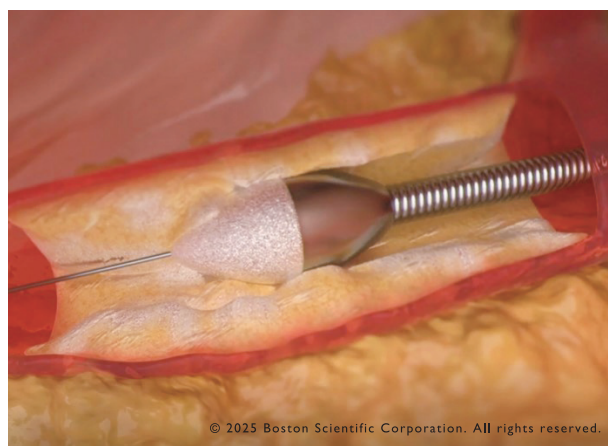
虚血性心疾患

Ischemic Heart Disease

県内でも数少ないHybridERを備える3次救急病院であり、救急車受け入れ数は愛知県トップクラス。地域の急性期医療を支える拠点病院です。ACSの搬送・紹介も多く、カテーテル治療実績も東海地方トップクラスです。

Rotablator・Diamondback・DCA・SHOCKWAVEなどの最新の医療機器を導入しており、従来の治療困難な石灰化病変に対しても有効な治療を提供。また、強力な心臓補助循環装置であるIMPELLAを導入しており、心原性ショックを呈する重篤な状態にも対応可能です。

全体として非常に高い治療成功率を達成しており、他院で治療困難といわれた症例にも対応。特に治療が難しいといわれている慢性完全閉塞性病変(CTO)の治療においては、海外へのlive transmissionを行う事もあり、海外の病院や学会にも招聘される医師が治療を担当し、治療成功率は95%以上と非常に高い成功率を達成しています。



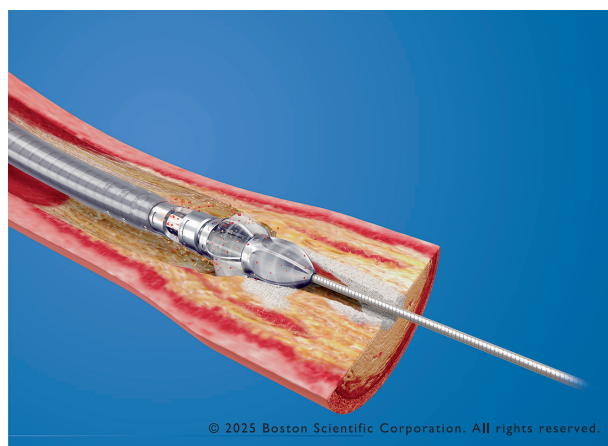
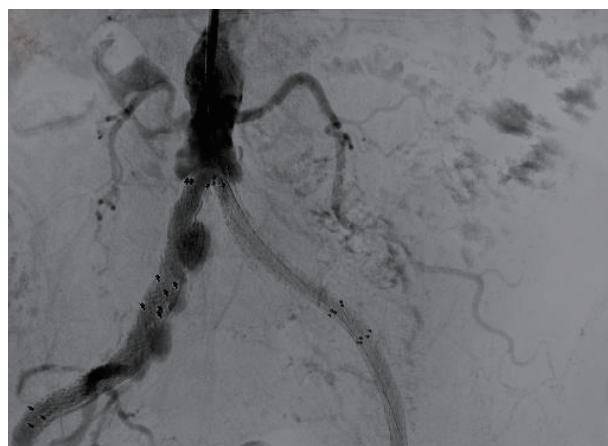
© 2025 Boston Scientific Corporation. All rights reserved.

末梢動脈疾患

Peripheral Arterial Disease

末梢血管疾患は虚血性心疾患との合併も30%あり、患者様のADL次第では症状に気づきにくい場合も多いです。特に糖尿病や透析症例では罹患率が高く発見が遅れることにより、感染や炎症が広がって下肢切断に至ってしまうこともあり、早期発見・早期治療が重要です。当院ではCrosserやJETSTREAM等の石灰化病変に対する最新の治療を受けられます。

また、慢性完全閉塞性病変(CTO)では治療成功率は99%以上と非常に高い成功率を誇り、薬剤溶出性バルーン(DCB)による治療を主として、異物を残さない治療を心がけています。また、下肢潰瘍を伴う様な重症下肢虚血(CLTI)の患者様においても治療成功率93%以上と非常に高い成功率を達成しています。



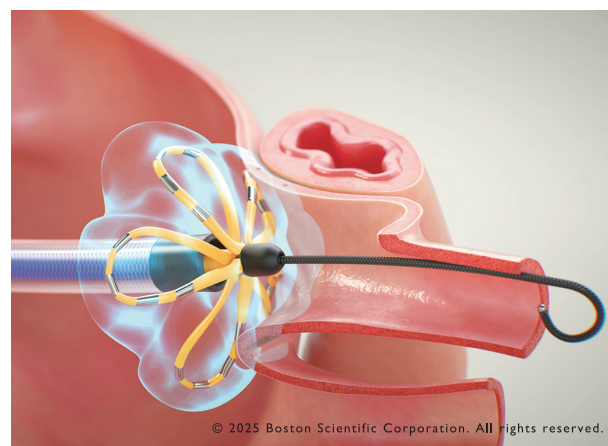
© 2025 Boston Scientific Corporation. All rights reserved.

不整脈

Arrhythmia

当院は2001年より、東海地区において先駆的に不整脈に対するカテーテルアブレーション治療を導入し、豊富な実績を積み重ねてまいりました。心房細動、発作性上室性頻拍、心室性期外収縮などの一般的な不整脈から、致死的リスクを伴う心室頻拍に至るまで、幅広い症例に対応しております。

近年、心房細動に対しては早期のリズムコントロールが生命予後の改善につながる事が明らかとなっており、当院では薬物療法に加え、より高い洞調律維持率と予後改善が期待されるカテーテルアブレーションを積極的に行っております。また、経静脈型およびリードレスペースメーカー、植込み型除細動器(ICD)、心臓再同期療法(CRT)といった各種デバイス治療にも注力しており、安全かつ適切な治療の提供に努めております。直近5年間で、約1130件のカテーテルアブレーションおよび約341件のデバイス治療を実施しており、多くの患者様に高度で専門的な循環器診療を提供してまいりました。



© 2025 Boston Scientific Corporation. All rights reserved.

心臓と血管の、あらゆる異変に応える。



最新技術導入とチーム医療

Advanced Technology and Collaborative Care

名古屋掖済会病院は、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設として、また、日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設・不整脈専門医研修施設として、高度な医療技術の導入と技術の研鑽を続けています。

本誌でもご紹介したように、それらの技術・設備の充実度については自負するところでありますが、何よりの強みは風通しのよい風土にあると思っています。カンファレンスでは、各診療科間の枠組みや、先輩・後輩間の垣根を飛び越え、歯に衣着せぬ活発な議論が行われるのが当院の日常的な風景になっています。

循環器系の病気については必要に応じて心臓血管外科とタッグを組んで治療にあたることも多いのですが、それ以外の病気をお持ちの患者様に対しても他の診療科の診断・治療について各分野の医師が情報共有した上で最善の医療を提供しています。

こうした専門家によるフレキシブルなチーム医療の体制、つまり医療における総合力と対応力は救命救急医療において、最後の砦であることを掲げる当院の歴史の中で培われてきたものです。

とはいえ、患者様にとっては緊急性の高い状況で治療を受けるよりも、落ち着いた状態の中で病気を発見し、治療を進めていくほうが安心です。そのためにも、地域のクリニックの先生方との連携をさらに強化しながら、病気の早期発見につなげ、地域の方々への健康寿命をサポートする医療に貢献することが私たちの大きな願いとなっています。

特にご高齢の患者様は入院が長引くほどに日常生活に戻るのが難しくなってしまうます。ですから、チーム医療の発想を地域全体に広げ、地域の先生方と手を携えることにより、地域の健康寿命を支えていきたいと考えています。

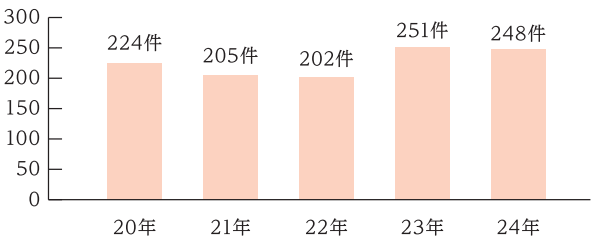
単に心臓や循環器の病気を見つけて治すだけでなく、患者様の人生そのものに伴走しながら健康をサポートする循環器内科でありたい。一朝一夕にして叶えられる理想ではありませんが、地域の医療機関が連携すれば必ずや実現できるひとつの到達点であると信じています。そうした志をご理解の上、安心して患者様をお任せください。最善の医療を提供することをお約束いたします。



循環器3疾患 紹介の臨床指標

循環器疾患について、どのタイミングで専門医へ紹介か迷われるケースもあるかと存じます。当院では、不整脈・虚血性心疾患・末梢動脈疾患の3領域に関して、日常診療中でご紹介いただく際の目安となる臨床指標を、各担当医より提示しております。患者様の症状や検査所見をもとに、適切なタイミングでご相談いただけましたら、当院の専門チームが診断・治療の方針をご提案いたします。気になる症状や検査値などございましたら、どうぞお気軽にご紹介ください。

不整脈	末梢動脈疾患	虚血性心疾患
● 動悸などの自覚症状でお困りの方 ● 健診等で初めて持続性心房細動を指摘された方、あるいは無症候であってもBNP値が100pg/mLを超える方 ● めまいや失神発作の症状を認める方 ● 心不全を合併した心房細動患者様 また、抗凝固療法の継続が困難な高出血リスク症例の方^(※) ※左心耳閉鎖デバイスの留置を行うことで、抗凝固薬の中止が可能となる場合があります。抗凝固療法の導入に際してご不安をお持ちの患者様につきましても、どうぞお気軽にご相談ください。患者様お一人おひとりに最適な治療法をご提案させていただきます。	● 急性に足のチアノーゼ・冷感が出現した。 ● 歩行時に下肢のだるさが出現する ● 安静時に下肢のチアノーゼ・冷感・痺れがある ● 下肢に潰瘍がある [検査所見] ● ABI≤0.9(特に0.4未満は重症) ● 間欠性跛行(50~200mで出現) ● 下肢潰瘍・壊疽・チアノーゼ	● 急性発症の胸痛がある ● 労作時の胸痛・動悸・息切れがある ● 他院で治療困難といわれた [検査所見] 心電図でST低下/上昇≥1mm トロポニンやBNPの上昇 (TroponinI>0.04ng/mL, BNP>100pg/mL)



アブレーションの治療件数の増加

当院ではアブレーション治療を年間200件以上安定して実施しており、2023年には最多の251件、2024年も248件と高水準の実績を維持しています。確かな技術で、地域の不整脈診療を支えています。

通算症例数

68件

20~24年度

ICDの通算症例数

2020年から2024年までの5年間で、ICD植込み通算症例数は通算68件にのぼります。専門性の高い不整脈治療にも着実に取り組み、地域の高度医療ニーズに応えています。

通算症例数

273件

20~24年度

ペースメーカー通算症例数

2020年から2024年の5年間で、新規ペースメーカー植え込み術は通算273件にのぼります。安全で確実な手技を重ね、地域の循環器診療を支える基盤として実績を積み重ねています。

■ 名 称 名古屋掖済会病院
■ 管理者 院長 北川 喜己
■ 病床数 602床

■ 診療科（全36科）

内科、血液内科、腎臓内科、糖尿病・内分泌内科、脳神経内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、
膠原病リウマチ内科、小児科、精神科、外科、消化器外科、肛門外科、乳腺外科、呼吸器外科、整形外科・
手外科、形成外科、脳神経外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、
リハビリテーション科、放射線科、病理診断科、救急科、麻酔科、歯科、歯科口腔外科、緩和ケア内科、
腫瘍内科、健康管理科、産業保健科

